

読書を通じて

～ 目指す子ども像 ～

「考える力」「豊かな心」「人と人との絆」

を築ける子ども

平塚市子ども読書活動推進計画（第三次）
中間評価実施報告書（平成29年度実施）



平成 30年 2月

平塚市中央図書館

目 次

ページ	項 目
P 1	目次 及び 重点取組の評価基準
P 2	はじめに 及び 委員名簿、中間評価部会開催状況
P 3	重点取組の展開Ⅰ 家庭における子ども読書活動の推進
P 7	重点取組の展開Ⅱ 地域における子ども読書活動の推進
P 1 1	重点取組の展開Ⅲ ボランティア活動支援による子ども読書活動の推進
P 1 5	重点取組の展開Ⅳ 学校等における子ども読書活動の推進
P 1 9	重点取組の展開Ⅴ 図書館における子ども読書活動の推進
P 2 3	重点取組の展開Ⅵ 子ども読書活動の啓発の推進
P 2 6	重点取組ごとの構成事業担当課一覧

重点取組の評価基準

6つの重点取組の評価は平塚市総合計画に準じて、A～Cの三段階で判定しています。

(平成27・28年度通して総合的に判定)

評価	項目	重点取組の成果指標の達成率の平均値 (%)
A	達成できた	90%以上
B	概ね達成できた	70%以上～90%未満
C	達成できなかった	70%未満

達成率 = 実績値 / 目標値 (%)

はじめに

平塚市子ども読書活動推進計画（第三次）は、平成27年2月に策定されました。読書を通じて広く情報にふれることで、「考える力」「豊かな心」「人と人との絆」を築ける子どもになれるよう、「家庭」・「地域」・「ボランティア」・「学校等」・「図書館」・「啓発」の6つの重点取組ごとに、21の施策と37の取組事業を推進しているところです。

平成29年度は、平塚市子ども読書活動推進計画（第三次）の中間年にあたります。そこで、前期を振り返り、後期の各事業をより効果的に実施することを目的として、中間評価を実施しました。学識経験者や図書ボランティアとして活躍されてる方々を構成員とする「平塚市子ども読書活動推進計画中間評価部会」（以下中間評価部会とする）を立ち上げ、庁内担当課による事業の進捗状況の確認、その後「中間評価部会」を2回開催し、委員から意見やアドバイスをいただきました。

中間評価部会の中で、事業の課題を洗い出し、新たな展開や方向性を検討しました。あわせて、平塚市図書館協議会の中でも意見をいただきながら、平塚市子ども読書活動推進計画（第三次）中間評価実施報告書を完成させることができました。

◆平塚市子ども読書活動推進計画（第三次）中間評価部会委員名簿（敬称略）

氏名	分野	所属	備考
加藤 憲一	学識経験者	神奈川大学准教授	座長
松木 真由美	子ども読書関係者	平塚市子ども読書活動推進協議会 (神田中学校区子ども読書活動推進協議会)	
美能 美貴子	子ども読書関係者	平塚市子ども読書活動ネットワーク運営委員会	

◆平塚市子ども読書活動推進計画中間評価部会開催状況

第1回中間評価部会

- 1 実施日 平成29年7月19日（水）
- 2 内容 子ども読書活動推進計画各課実施事業の平成28年度実績及び担当課による事業評価シートに基づき、協議・検討。

第2回中間評価部会

- 1 実施日 平成29年10月27日（金）
- 2 内容 第1回中間評価部会での意見等をまとめた報告書（案）の提示、協議・検討。

重点取組の展開



赤ちゃんおはなし会

I

家庭

における

子ども読書活動の推進

大人が本に親しまなければ、子どもに読書の楽しさを伝えることはできません。赤ちゃんに絵本を手渡しするブックスタートや、未就学児を対象にした開放保育やおはなし会を実施するとともに、家庭教育学級などの啓発活動により、家庭での読書を推進します。

具体的な4つの事業（活動指標）

1 乳幼児を迎える家庭に向けた読書活動の啓発	年度	27	28	29	30	31
取り組み 市内の産科がある医院に対して、ポスターの掲示を依頼し、PRを行いました。	協力を依頼した団体数（団体）					
	目標値	4	4	5	5	5
	実績値	4	4			
担当課による評価	担当課 中央図書館					
ブックスタートの参加率が上がり、赤ちゃんおはなし会にも前年よりも多くの親子が参加するなどの効果がありました。妊産婦やその家族が関心を持ちやすいような冊子を作成するとともに、利用が見込まれる保健センターのネウボラルームなどを活用し、啓発の拡充を図ります。						
2 ブックスタート事業	年度	27	28	29	30	31
取り組み 平成28年度から保健センターの「7か月児相談」（月3回）での実施を開始し、図書館、金田公民館などと合わせて66回、中央図書館で予約不要日として4回実施しました。	ブックスタートの開催回数（回）					
	目標値	55	55	60	60	60
	実績値	58	66			
担当課による評価	担当課 中央図書館					
ブックスタートに参加したご家族が、図書館で毎月開催している赤ちゃんおはなし会へ参加する姿がみられ、継続性をもって事業を実施できていると思います。ブックスタートに参加していない方に対しては、健診等の機会を利用したフォローの方法はないか検討しています。また、過去に参加した乳児を対象としたアンケートを実施するなどにより事業の効果を計る必要があります。「7か月児相談」の実施により参加機会が増えましたが、さらに多くの乳児とその家族に事業の趣旨を丁寧に伝えられるよう、引き続きボランティアとの協働によるきめ細かい対応に努めます。						
3 家庭教育学級などでの読書関連事業の開催	年度	27	28	29	30	31
取り組み 公民館の読み聞かせサークル等と連携し、公民館の自主事業、家庭教育学級等において、乳幼児及び保護者を対象とした絵本や紙芝居を読み聞かせる「おはなし会」を実施しました。	定例おはなし会等の親子対象の読書関連事業数(事業)					
	目標値	14	14	16	16	18
	実績値	12	16			
担当課による評価	担当課 中央公民館					
親子で絵本を楽しむ時間を提供するだけでなく、参加者同士、また公民館の読み聞かせサークルとの交流の場を作ることができました。一部の公民館では参加者数が減少しているため、公民館の読み聞かせサークル等と協議し、歌や手遊びなども取り入れ、親子で触れ合いながら楽しむ「おはなし会」を開催します。						
4 家庭向けの読書事業の実施	年度	27	28	29	30	31
取り組み 保健センターで実施している1歳6か月児健診・3歳児健診の会場に本を置き、待ち時間に本に触れる機会を作りました。	子育て支援事業等での読書活動の実施回数（回）					
	目標値	—	1	1	2	2
	実績値	1	1			
担当課による評価	担当課 健康課					
保護者が子どもに本を読み聞かせる様子が多く見られ、家庭の本以外にも触れる機会となっていると思われます。今後も継続し実施していきます。						

重点取組の成果指標

ブックスタート事業		年度	27	28	29	30	31
取り組みや課題 <u>担当課 中央図書館</u> 平成28年度から保健センターの7か月児相談の場でブックスタートを実施した結果、参加率が向上しました。引き続き関連機関との連携を進めるとともに、ボランティアのステップアップのための研修なども行い、事業の効果を高めていきます。		市内対象乳幼児の約 1,900 名に対する参加割合 (%)					
		目標値	58	58	58	58	58
		実績値	50.4	69.7			
		実施後のアンケートで、家庭で赤ちゃんとの絵本を楽しむと思った保護者の割合 (%)					
		目標値	90	91	93	94	95
		実績値	99.9	99.8			
子ども読書活動推進フォーラム		年度	27	28	29	30	31
取り組みや課題 <u>担当課 中央図書館</u> サイン会については、会場での実施は時間内に終了できなかったため、平成28年度にはサイン本を後日受け渡す方法を取り、サイン会の参加人数を増やしました。一方で、サイン会に参加するためには絵本を購入する必要があり、来場者全員が参加できないという課題があります。		フォーラム終了後のサイン会の参加人数 (人)					
		目標値	100	105	110	115	120
		実績値	153	144			
		フォーラム講師へのファンレター枚数 (枚)					
		目標値	40	40	40	48	50
		実績値	45	36			

中間評価

A

中間評価部会委員からの提案事項等

委員からの提案事項

第三次計画が策定された際、プレママ・プレパパ等今まで対象としていなかったターゲットに対して周知していく内容が盛り込まれた点を大変評価した。産院へのポスター掲示等の周知活動によりブックスタートの参加率が上がったとの担当課による評価があるが、妊産婦に対しブックスタートの大切さを伝えるだけでなく、実際、妊産婦へ向けて絵本の読み聞かせを行い、絵本の良さを体感してもらう機会が大切なのではないかと。一般的に、子どもが産まれてからよりも妊娠期の方が時間的に余裕ある方が多いと思われるので、妊娠中に絵本を読む機会を提供できればと期待する。例えば、図書館単独で、妊産婦向けに絵本の読み聞かせを行ったりするイベントは実施できないか。

担当課の見解

今年度は、健康課と連携して妊婦とその家族を対象とした「母親父親教室」の中で、ブックスタートなど読書や本に親しむ事業を、周知してまいります。また、保健センターやネウボラルーム、産科のある病院などでのチラシ配布とポスター掲示も予定しており、今後も関係課や関係機関と連携して、事業の啓発を進めてまいります。

妊産婦を含め広く大人の方が楽しめる絵本の読み聞かせの機会については、中学校区の協議会での実施事例もありますが、図書館事業としても今後検討していきたいと思っております。(中央図書館)

※ネウボラルーム

平成29年4月に保健センターに設置された、妊娠期から出産、子育て期までの切れ目ない支援を目的に、専門職員が配置された相談窓口

委員からの提案事項

ブックスタートの参加率が伸びても、それだけで読書活動の推進になるとは限らない。日常生活の中で読書に親しめるような活動として、具体的な次の段階に踏み込めていないのではないかと。

各構成事業の対象者、形態や事業間の連続性等を分析しても、ブックスタートを実施するだけでなく、成長に応じてその次の機会に繋げていくことが必要だと思っております。

担当課の見解

ブックスタートの次の段階として、現在赤ちゃんおはなし会を実施していますが、ブックスタートに参加された乳児の保護者を対象に事後アンケートを実施して、その結果を今後の事業に活用していく予定です。また、来年度は新たなステップとして、未就学児や保護者を対象としたイベントが実施できるよう検討しています。(中央図書館)

委員からの提案事項

1歳6か月健診・3歳児健診の機会などを利用し、読み聞かせを実施する等、他のイベントに図書館の事業を入れ込むのは難しいのか。図書館単独の事業ではなく、他のイベントの際に合わせて組み込んでいくのはトータル的にみると効果的だと思っております。たとえば、保健センターは妊産婦や子どもの健康のための施設だが、そこでも本を読む・本に親しむという社会教育的視点をPRしていく必要があると考える。

担当課の見解

現在、健診時には絵本等が置いてあり、ご家族で自由にご利用いただくことができる状況ですが、さらに読み聞かせを実施することは非常に効果的であると考えます。健診時に読み聞かせについては、今年度中に健康課と相談する機会を設けたいと思っております。(中央図書館)

委員からの提案事項

ブックスタートのPRのためにポスターの掲示、チラシの配布をしているが、母子手帳を交付するときにチラシを渡したり本を渡したりできないのか。

担当課の見解

現在行っていませんが、母子手帳交付の際の配付物の一つとすることは可能であると考えます。しかし、母子手帳交付の際の配付物は大変多く、紛れてしまう可能性もあります。事業の説明をしてチラシを渡すことができればさらに効果的ですが、それは現状では難しいと考えます。全新生児の家庭にしっかり周知していけるよう検討してまいります。
(中央図書館)

委員からの提案事項

子ども読書活動推進フォーラムの目標が、サイン会の参加人数とファンレターの枚数となっているが、作家の作品貸出件数や各校に作家の本を配置した件数等を指標にした方がいいのではないか。

フォーラムの際などにアンケートを実施しているが、アンケートに、日常的にどのくらい図書館へ来館し、何冊くらい本を借りていくのか等細かい項目を入れ込んでどうか。毎年継続的にアンケート結果を集計することで、来館頻度や貸出件数が増えた等の方向性で事業の成果が分かるように項目を設定していけば良いと思う。また、各事業の目標設定において、必ずしも毎年数値を上げていかなければいけないものではない。図書に親しむ機会が増えたことを示す指標かどうかが大切だと思う。

担当課の見解

子ども読書活動推進フォーラムは、満足度がほぼ100%の事業のため、満足度以外の数値化ができる目標として、サイン会の参加人数とファンレターの枚数を成果指標として、当初に設定しました。しかし、指標としてあまり適さないと思われるため次期計画へ向け、指標の変更を検討します。

アンケートについては、フォーラムに限らず他の事業でも、現状の事業満足度を問う項目から、「図書館を利用したいと思う」「もっと作家の本が読みたくなった」等、継続的に状況を把握し効果をはかれるような項目へ来年度以降改善したいと思えます。
(中央図書館)

重点取組の展開



男女共同参画紙芝居

Ⅱ

地域

における

子ども読書活動の推進

子ども読書活動の推進には、図書館だけでなく、公民館や保育園、子育て広場など、子どもの一人ひとりに応じた地域のさまざまな場において読書環境の充実が必要です。地域や関係機関との連携強化を図り、本と出会う機会に恵まれた読書環境づくりに努めていきます。

具体的な6つの事業（活動指標）

5 子育て広場での読書活動の実施	年度	27	28	29	30	31
取り組み 地域の子育て支援活動である「子育て広場」にて、保育士がエプロンシアター、絵本、紙芝居の読み聞かせを実施しました。	実施広場での実施回数（回）					
	目標値	10	9	19	19	19
	実績値	19	19			
担当課による評価 「子育て広場」を主催する主任児童委員と連携しながら読み聞かせを実施することで、親子で一緒に楽しむことや絵本の楽しさについての啓発につなげることができました。引き続き、地域での「子育て広場」を主催する主任児童委員などと連携し、エプロンシアター、絵本、紙芝居の読み聞かせを実施していきます。						担当課 保育課
6 子育て支援センターでの読書活動の実施	年度	27	28	29	30	31
取り組み 1日2回のジョイフルタイムで、手遊びや紙芝居、読み聞かせなどを計473回実施しました。	子育て支援センターでの実施回数（回）					
	目標値	200	200	200	200	200
	実績値	474	473			
担当課による評価 ジョイフルタイムで体験した手遊びや読み聞かせを家庭でも実施しているという話を聞くこともあり、きっかけづくりになっていると思います。大型絵本の読み聞かせやパネルシアターなどを基本とした活動を引き続き行います。また、乳幼児が対象のため、ペープサート等視覚を利用した教材を使い、演じ手に注目しやすい工夫を行うなど、多くの親子に楽しんでいただけるように努めます。						担当課 保育課
7 開放保育等での読書活動の実施	年度	27	28	29	30	31
取り組み 公立保育園（9園）で未就学児を対象として実施する「開放保育」の中で、保育士やボランティアが、エプロンシアター、絵本、紙芝居の読み聞かせを実施しました。	保育園、こども園での実施回数（回）					
	目標値	120	90	100	110	120
	実績値	200	120			
担当課による評価 地域の子育て家庭へ保育園やこども園の遊びの場を提供する中で、読み聞かせを行うことにより、絵本を通して親子で楽しむことや、絵本の啓発につなげることができました。引き続き、開放保育の中でエプロンシアター、絵本、紙芝居などの読み聞かせを実施し、地域の子育て世帯への読み聞かせなどの機会の充実を図ります。						担当課 保育課
8 公民館の子ども向け図書を活用	年度	27	28	29	30	31
取り組み 子ども向け図書を公民館だよりで紹介するとともに、図書コーナーの閲覧・貸出図書として活用しました。また、公民館の読み聞かせサークル等と連携し、子ども向け図書を読書関連事業で活用しました。	子ども向け図書の活用を図っている公民館数（館）					
	目標値	24	24	24	24	24
	実績値	24	24			
担当課による評価 公民館の読み聞かせサークル、小学校の学校司書や図書ボランティアなど様々な地域団体と連携することで、地域に広く周知し、活用することができました。地域により広く周知するため、引き続き、公民館の子ども向け図書を公民館だよりや市ホームページ等で紹介するとともに、読書関連事業で活用します。						担当課 中央公民館

9 図書館と公民館との連携の促進		年度	27	28	29	30	31
取り組み 公民館への団体貸出や、西図書館と旭南・旭北公民館の共催による子ども向け事業の実施、また公民館まつりでの絵本等の古本無料配布の協力等、相互の連携を図りました。		連携事業数※ブロック単位での事業も含む(事業)					
	目標値	2	4	5	6	7	
	実績値	3	7				
担当課による評価 地域ニーズや特性を配慮し、図書館と連携を図りながら、読書関連事業の充実を目指します。		担当課 中央公民館					
10 こころと命のサポート事業での読み語りの実施		年度	27	28	29	30	31
取り組み 地域の子ども読書活動推進協議会等と協働し、読み聞かせ等の活動を通じた命の尊さを伝える普及啓発に取り組みました。今年度は、「いのちの尊さをつたえる本」のリストを保育園等へ配付し、リストを活用した読み語り等を依頼しました。		読み語り等を実施する地区数(地区)					
	目標値	2	3	3	3	4	
	実績値	2	3				
		※平成28年度読み聞かせ活動実績：延べ回数674回、延べ人数20,151人					
担当課による評価 行政提案型協働事業として始まった取組ですが、徐々に地域に定着してきています。引き続き、取組が他地区へ広がるよう、協議会をはじめ、保育園等と協力・連携し、命の大切さや尊さを伝える普及啓発を推進します。		担当課 福祉総務課					

重点取組の成果指標

地域で読書活動を行っている事業の参加者数		年度	27	28	29	30	31
取り組みや課題 担当課 保育課 開放育児講座の中で絵本の読み聞かせを取り入れました。また、ボランティアによる読み聞かせでは「いのちの尊さを伝える本」を読んでいただいたり、出前保育では公園で遊んでいる親子に絵本の読み聞かせを行いました。 開放保育や出前保育では、子どもの体調や天候で参加人数が左右されてしまいますが、今後も継続していきたいと思えます。		開放保育での参加人数(人)					
	目標値	3,000	2,700	2,800	2,900	3,000	
	実績値	3,475	2,500				
		保育園、こども園でのボランティアによる読み語りなどの参加者数(人)					
	目標値	5,000	4,500	4,600	4,700	4,800	
	実績値	7,000	7,000				
公民館及び公民館登録サークルとの共催事業		年度	27	28	29	30	31
取り組みや課題 担当課 中央公民館 公民館の読み聞かせサークル等と連携した新規の「おはなし会」の開催や図書ボランティアと読み語りの技術向上のための教室を開催するなど、地域のニーズや特性を活かした新たな事業を実施しました。また、「おはなし会」の参加者数が低迷している公民館では、今後、対象年齢を変更したり、歌や手遊びなど内容を充実させ、親子で絵本を楽しむ機会を創出する予定です。		公民館及び公民館登録サークルとの共催事業での読書活動事業参加数(人) ※公民館登録サークルが単独で開催しているものは除く。					
	目標値	2,600	2,600	2,650	2,700	2,750	
	実績値	2,830	2,840				

中間評価

A

中間評価部会委員からの提案事項等

委員からの提案事項

公民館によっては、図書購入費があっても公民館主事がどのような本を購入すれば良いかわからなかったり、実際本を置くスペースがなかったり使いこなせない例もあるようだ。図書館として、選書の方法等アドバイスできる仕組みがあれば良いかもしれない。

担当課の見解

全公民館主事が集まる公民館主事会議などの機会を利用し、公民館の状況を把握したいと思います。図書の選書方法がわからない場合があれば、図書館としてアドバイスし、公民館と図書館の連携の促進を図りたいと思います。
(中央図書館)

委員からの提案事項

何かのイベントの時だけでも、図書館の本が置いてあってそれを借りていけるような仕組みがあれば良い。一年を通してでなくても、夏休み期間だけ公民館で団体貸出する等の方法もある。アイデアとして、公民館の方が住民によりアクセスしやすい立地にあるケースもあるので、公民館に本が置いてありそこで借りることができれば、活動として有利な部分があるのではないかと思う。

担当課の見解

受け皿となる団体の有無や図書の管理や人事配置等の問題がありますので、すぐには難しいと考えています。団体貸出については市内各団体へさらに周知していく必要もあると思いますので、公民館へポスターを掲示する等検討します。
(中央図書館)

※団体貸出

平塚市内で文庫活動をしている団体などへの図書の長期貸出。図書最大500冊・紙芝居最大20組まで、移動図書館あおぞら号の図書をお借りいただくことができます。貸出期間は最長3カ月、団体等で管理・運用していただきます。

委員からの提案事項

ボランティアの意識からすると、公民館と図書館を分けて考えていない方もおられると思う。公民館と図書館が相互に住民にとってやりやすい方法を検討していかないと、市全体としての子ども読書活動の動きが悪くなってきてしまうと思う。

公民館と図書館の連携の促進という意味では、地域の方が活動をやりたいとか、公民館側が何か読書のイベントを行いたい等の場合に、積極的に図書館側がその活動を支える立場を担えるかということが大切なのだと思う。

担当課の見解

今後も、各中学校区子ども読書活動推進協議会代表者会議など、現場で活動されている方の意見や要望を伺います。また、公民館へも、読書に関するイベントを実施していただけるよう呼びかけたりしていきます。図書館として公民館等関係機関と連携し、全市的に子ども読書活動を進めていきたいと考えます。
(中央図書館)

委員からの提案事項

活動が活発な地域とそうではない地域があるのは仕方ないことだが、大切なのは活発な地域の事業を推進することではないか。活発に活動している地域の事業をモデル的な事業として、積極的に進めることも大切である。

担当課の見解

希望する地域に対しては、図書館施設を提供するなど、新規事業実施の際の情報提供も含め活動の支援をしています。今後、各中学校区子ども読書活動推進協議会で実施している事業見学などを行い、活動の様子を見たり現場の声を聴いたりする機会を増やしていきたいと考えます。

モデル的な事業の支援については、各中学校区子ども読書活動推進協議会代表者会議の際に、各中学校区の事業の紹介をする機会を設けています。また、図書ボランティアの方から各中学校区の年間の事業内容等が知りたいという声もいただきましたので、各中学校区の年間の事業計画や実施報告について、早ければ平成29年度分から一覧表などを作成し、地域間で活動を共有できればと考えています。

(中央図書館)

重点取組の展開



図書ボランティア情報交換会

Ⅲ

ボランティア

活動支援による

子ども読書活動の推進

子ども読書活動の推進には、図書ボランティアの協力が不可欠です。学校や地域との連携強化を図り、学校図書館や地域で活動する図書ボランティアが、一層活躍できる体制づくりを推進していきます。

具体的な7つの事業（活動指標）

11 各中学校区協議会運営の弾力化	年度	27	28	29	30	31
取り組み 図書ボランティアの人材確保の難しさや協議会活動への参加に難色を示されている地域もあり、活動が困難になっている協議会が一部あります。平成28年度は1地区の中学校区の協議会から休会の申し出がありました。（計2地区休会）	ボランティアがいる学校数（学校数）					
	目標値	43	43	43	43	43
	実績値	40	37			
担当課による評価 担当課 中央図書館 図書ボランティアの減少等により、協議会の運営が難しくなっている地区が出てきています。一様に協議会の運営をお願いするのではなく、図書館として地域の実情にあわせた子ども読書活動への支援を検討していく必要があります。休会を希望した地区には、協議会運営の負担軽減策を提示しましたが、今後もそれぞれの地域の実情にあった図書ボランティア活動を尊重しつつ、図書に関する情報提供や講習実施などの支援により、活動を充実させることが必要です。						
12 意欲的な活動に対する適切な支援と援助	年度	27	28	29	30	31
取り組み 随時相談を受け、意欲的な活動を行っている協議会へ図書館施設を貸出する等、適切な支援を行いました。	意欲的な活動に対する支援への検討回数（回）					
	目標値	2	2	3	3	4
	実績値	1	1			
担当課による評価 担当課 中央図書館 現場の活動の把握が弱く感じています。担当者が各協議会の活動を見学したり、また他地区の協議会の活動を紹介し各地区同士が参考にできるような取組を検討していく必要があります。図書ボランティアが気軽に相談できる体制づくりや、各協議会の活動等を把握し、適切な支援に努めていくことが必要です。						
13 子どもの家での読み読みの実施	年度	27	28	29	30	31
取り組み みなと子どもの家、山城子どもの家、大野子どもの家の3館で月に1回ずつ実施しました。天候不順のため、参加者がいなかった回を除いて32回となりました。	子どもの家での読み読みの回数（回）					
	目標値	36	36	36	36	36
	実績値	29	32			
担当課による評価 担当課 青少年課 絵本の読み聞かせの内容は、絵本のみではなく、エプロンシアターや紙芝居、ペープサートなどを盛り込むなど充実したものとなっておりますが、参加者数が毎年横ばいの状況です。そのため、今後は、子どもの家にチラシを配架する等PR活動を支援していきます。						
14 ボランティア向けの講習会等の実施	年度	27	28	29	30	31
取り組み 代表者会議などでの周知のほか、LINK 第13号にも掲載してもらい、より広く周知することが出来ました。	講師派遣や講習会などの支援の周知回数（回）					
	目標値	4	4	5	5	6
	実績値	11	12			
担当課による評価 担当課 中央図書館 講師派遣の講習会で得た技術や知識を、小学校のおはなし会や図書室整備で活用した事例が報告されました。代表者会議等でのPRにより、事業の存在はかなり周知できました。内容についての問い合わせが多くなり、対応できる体制を整える必要があります。						

15 学校や関係機関等との協力強化		年度	27	28	29	30	31
取り組み 市内全43校の司書教諭、学校司書が参加する会において、「ボランティアとの連携」をテーマのひとつに挙げ、情報交換や事例報告を行いました。	学校や関係機関等での検討回数(回)						
	目標値	4	4	3	3	3	
	実績値	3	3				
担当課による評価 <u>担当課</u> 教育指導課 学校司書の全校配置から4年が経過し、司書教諭のコーディネートにより、図書ボランティアと学校司書それぞれが機能的に働いています。充実した学校図書館の整備に図書ボランティアの力は欠かせません。在校生保護者等が気軽に参加できるような工夫や配慮が必要だと考えます。							
16 ボランティアと協働した事業の実施		年度	27	28	29	30	31
取り組み 職場体験学習での中高校生の受け入れ時に、園児に読み聞かせを実施し、絵本を介し園児と中高校生の交流の機会を設けました。	保育園、こども園での実施回数(回)						
	目標値	10	9	9	9	8	
	実績値	10	9				
担当課による評価 <u>担当課</u> 保育課 中高校生が職場体験学習の中で、絵本を介した交流を体験することができました。また、中高校生が幼児に読む絵本を探ることが、絵本に触れる良い機会になったと思います。日程や時間調整の難しさはありますが、今後も職場体験学習での読み聞かせを実施し、絵本を介した園児と中高校生との交流の機会に努めます。							
17 ボランティアへの情報提供の促進		年度	27	28	29	30	31
取り組み 各中学校区子ども読書活動推進協議会の代表者会議を3回開催し、情報交換やワークショップ、絵本作家の講演会を実施しました。また、図書ボランティア情報交換会を開催し、お互いの日頃の活動や、他市での学校図書館における取組事例を紹介しました。	代表者会議・情報交換会等での提供回数(回)						
	目標値	4	4	4	4	5	
	実績値	4	4				
担当課による評価 <u>担当課</u> 中央図書館 現場で活躍する図書ボランティアがどのような情報や研修を求めているか、アンケートの実施などを通して最新のニーズをさぐっていく必要があります。地域や学校での図書ボランティアの活動において、地域の実情に合った連携強化を進め図書ボランティアがより充実して活動できるようサポートに努めます。							

重点取組の成果指標

図書ボランティア講習会の受講者数等		年度	27	28	29	30	31
取り組みや課題 <u>担当課</u> 中央図書館 子ども読書活動推進協議会などで講習会を利用してもらえるように、代表者会議の場などでPRを行いました。図書館主催の講習会では、受講者にアンケートを取り、ニーズにあった講習会を計画していきます。	図書館主催または図書館職員が講師となったボランティア向け講習会の受講者数(人)						
	目標値	270	270	280	280	290	
	実績値	189	285				
取り組みや課題 <u>担当課</u> 青少年課 ボランティア団体が年に一度ボランティアの募集を行い、集まった人たちが定期的に講習会や勉強会等を開催しています。勉強会では、参加した子どもたちが楽しめるよう工夫するとともに、読んでいるボランティアの方たち自身も楽しく読み聞かせができるよう日々活動しています。そういった日々の活動が実際の現場で活かされています。	絵本を楽しむ会(人) ※絵本を楽しむ会は青少年会館登録のボランティア団体。						
	目標値	10	11	12	13	14	
	実績値	3	8				
図書ボランティア数		年度	27	28	29	30	31
取り組みや課題 <u>担当課</u> 中央図書館 平成28年度は、休会中の中学校区も対象として図書ボランティア数の調査を行ったため、平成27年度実績に比べて増えました。新たに活動する方を増やすために、図書ボランティア情報交換会等の機会を利用し、現場で活躍されている方の声を参考に、柔軟な支援を検討していく必要があります。	図書ボランティア数(人)						
	目標値	1,050	1,100	1,100	1,150	1,200	
	実績値	993	1,055				
	子ども読書活動推進協議会 公民館・図書館他	914 79	854 201				

中間評価

B

中間評価部会委員からの提案事項等

委員からの提案事項

第三次計画策定の際も、ボランティアのなり手はいるが、協議会に入ること拒否反応を示す方が多いという意見があった。現場の声を聴くと、小学校区単位で協議会を設置した方が運営しやすいようだ。

一方で、協議会を統括する大きな組織をつくり、ボランティアではなく仕事としてその組織運営する方法もある。しかし、仕事として協議会を運営していくことは良い反面、現場の声を届けづらくなるなどボランティアの方々の想いに反してしまう可能性もあり難しい問題がある。

担当課の見解

中学校区毎に協議会を設置しているのは地域ぐるみで読書活動をしようというのが出発点でした。しかし、実際には小学校区単位の方が活動しやすい面がある一方、中学校区単位だと、他の小学校にも行けたり、学校間で様々なことがお願いしやすくなったり、子どもが中学校に上がる前から連携がとれるので良い等の報告もあります。地域をうまく連携させ、現場の声を活かした協議会の運営体制を考える時期にきていると感じています。今後も各中学校区協議会の声を聴きながら検討していきます。

委員からの提案事項

公民館で活動しているボランティアの方の話だが、ニーズがあれば地域に限らずもっと色々な所で読み聞かせを行いたいが、そのニーズがどこにあるかわからないということもあるようだ。ニーズをまとめるような組織があれば良いとも思う。

担当課の見解

協議会全体として、希望がある地域にボランティアを紹介できる機能を持たせられると良いと考えます。一度、公民館や福祉村など市の施設を通してニーズを把握し、整理していきたいと考えます。

(中央図書館)

委員からの提案事項

ボランティアは事務的なルールについて、全て把握しているとは限らないので、協議会の運営費の使い方などの面でもサポートが薄いように思われる。協議会の運営に慣れている人はいいが、初めて協議会の運営に携わるような不慣れな人に対してサポート体制が必要だと感じる。

担当課の見解

全中学校区に協議会を設置してから10年経過いたします。各中学校区に配られているマニュアル（データ集）はどの程度役立てられているのか、平塚市子ども読書活動ネットワーク運営委員会との連携ができないか等を含め、各中学校区協議会の方々の声を聴きながら、より現場に即した運営ができるよう、検討していきます。

(中央図書館)

委員からの提案事項

行政側としても市民に活動を活発に行ってほしい一方、やりたいニーズがあっても申請が手間なので二の足を踏んでしまうケースは、よく起こる。中間評価部会で中間的組織についても議論したが、申請を簡略化し、やりたい活動があれば少額でもいいので補助をし、実績があればその実績と信頼に基づいて次年度以降も支出する仕組みはどうか。

各中学校区の活動とは別に申請すれば補助してもらえる仕組みを作れば良いと思う。現状でうまくいっている地区の活動はそのまま継続してもらい、協議会がうまくいっていない地区でもやりたいことがあればそれを支援するような仕組みを作り、それらの活動が軌道に乗ればまた協議会として活動もできるような仕組みがあれば良い。

担当課の見解

子どもの読書を推進するためには、協議会という枠組みを取り払って、地域の活動ともっと広い分野での活動とを分けて考える必要があります。各中学校区協議会では、小中学校に対する活動に限定されてしまうことが多いですが、対象を広げ、やりたいことに対しピンポイントに団体へ支援する市民活動センターなどの利用も考慮しつつ、協議会の在り方について検討していく必要があります。（中央図書館）

委員からの提案事項

現在ボランティアのなり手がいない地区でも将来なり手がいるかもしれないので、今なり手がいないからといって協議会からシャットアウトしないでほしいし、そういった地区にも常に呼びかけてほしい。保育園・小学校など様々な場所へ読み聞かせ等に行き、それを見た保護者が次は自分もボランティアをやってみようかなということもあると思う。

担当課の見解

現在、協議会の運営を休会している地区が2地区ありますが、休会中の地区に対しても情報提供したりして呼びかけていきます。また、活動しているボランティアの方々とコミュニケーションをとりながら、悩み等を共有していけるよう努めていきます。（中央図書館）

委員からの提案事項

図書館側からある程度、やりたい人やアイデアを引き上げ、それを形にしていくお手伝いをしていく必要がある。やりたいことがあっても、ボランティアが事務的なものを整え、実施までこぎつけるのはエネルギーがいることだ。形式が整ってから行政として手を差し伸べるのではなく、企画やアイデアの段階から手を伸ばしていくことも大切であると考えます。

担当課の見解

中央図書館のおはなし会のボランティアの方々とは、年に数回話し合いの場を設け、やりたいことやアイデアを伺い、ともに事業を実施していただいています。ボランティアで活躍されているみなさんがどのような活動をしたいのか、図書館へ気軽に相談できるような体制づくりも必要と考えます。

（中央図書館）

重点取組の展開



サン・サンスタッフ(学校司書)

IV 学校等 における 子ども読書活動の推進

サン・サンスタッフ(学校司書)の全校配備が完了し、学校図書館の運営が充実してきました。教育課程の中で連携を図りながら、公共図書館が学校図書館や幼稚園、保育園の図書コーナーを支援する取組を進めるほか、読書計画などの作成を通じて平日1日あたり10分以上読書をする割合の改善などを図っていきます。

具体的な7つの事業(活動指標)

18 幼稚園教諭への意識向上、啓発	年度	27	28	29	30	31
取り組み 要請訪問での指導助言により、読書活動に対する教職員の意識向上が図れました。	要請訪問等での読書指導の回数(回)					
	目標値	5	5	5	5	5
	実績値	5	5			
担当課による評価 <u>担当課 教育指導課</u> 幼稚園では毎日、読み聞かせが行われています。図書館との連携で絵本の貸出や推薦、読み聞かせ研修等の支援ができるとういと思います。各園の蔵書整備の支援や読み聞かせの実技研修を受ける機会を用意する必要があります。						
19 保育園等での読書活動の実施	年度	27	28	29	30	31
取り組み 保育士や地域の読み聞かせボランティアによる読み聞かせを実施しました。また、親子でいつでも絵本に触れることができるように、絵本の貸出を実施しました。	読書活動を実施している保育園、子ども園数(園)					
	目標値	10	10	9	9	8
	実績値	9	9			
担当課による評価 <u>担当課 保育課</u> 引き続き保育士や保育教諭、地域の読み聞かせボランティアによる読み聞かせを実施し、園児が絵本に親しむ機会を設けていきます。また、絵本の貸出については、新刊図書や推薦図書を知らせるなど、さらなる充実を図ります。						
20 学校司書の支援の強化	年度	27	28	29	30	31
取り組み 学校司書説明会では図書システムの操作講習、連絡協議会では、東京学芸大学附属中の学校司書による講演を開催し、各学校での学校図書館運営に生かすことができました。	研究会・検討会の回数(回)					
	目標値	3	3	3	3	3
	実績値	2	2			
担当課による評価 <u>担当課 教育指導課</u> 研究会の回数は限られていますが、各校での取組に生かせる講演と各校の取組事例の情報交換により、効果を上げています。学校司書の雇用条件があり、研究会の実施回数に限られています。その中で、各学校での読書活動推進につながる効果的な研究会の実施に努めていきます。						
21 司書教諭、学校司書の情報共有、意見交換の充実	年度	27	28	29	30	31
取り組み 市内全43校の司書教諭が参加する打合せ会を1回、学校司書と司書教諭が参加する連絡協議会を1回開催し、学校図書館の活用や読書活動の充実について情報交換を行いました。	情報交換会・意見交換会等の回数(回)					
	目標値	3	3	3	3	3
	実績値	3	3			
担当課による評価 <u>担当課 教育指導課</u> 回数は限られていますが、各校での取組に生かせる講演、各校の取組事例等の情報交換ができる場として有効なものになっています。学校司書の雇用条件があり、意見交換の機会に限られています。その中で、各学校での読書活動推進につながる具体的な意見交換の充実に努めていきます。						

22 学校図書館(小・中)の蔵書の充実		年度	27	28	29	30	31
取り組み 学校規模等に合った予算のほか、各校一律の追加配当予算により図書や書架等の整備を行い、学校図書及び学校図書館環境の充実を図りました。	小学校の図書の充足率(%)						
	目標値	81.5	82.0	82.5	83.0	83.5	
	実績値	75.0	76.2				
	中学校の図書の充足率(%)						
	目標値	91.5	92.0	92.5	93.0	93.5	
	実績値	78.2	76.6				
担当課による評価		担当課 教育総務課					
児童・生徒や教員のニーズに合った図書を購入しつつ、国が定めた標準冊数を早期に確保するとともに、古くなった図書の適切な整備や、学校図書館内の環境整備も必要です。また、学校間での充足率の格差を是正するため、計画的な図書の整備が必要です。							
23 教科等との連携の強化		※ 指標設定せず					
取り組み 市内全43校に「学校図書館ガイドライン」(文部科学省)を周知しました。また、小学校教育研究会図書館教育部会において、学習センター・情報センターとしての機能についてお話ししました。							
担当課による評価		担当課 教育指導課					
読書指導以外でも活用される学校図書館を目指したいところではありますが、図書館資料の充実が必要だと思います。司書教諭と学校司書以外の教職員にも学校図書館を活用した授業の有効性を理解してもらう必要があります。まずは、各校での学校図書館を活用した授業例等の情報交換を充実させていきます。							
24 読書計画の作成、読書の時間の充実		年度	27	28	29	30	31
取り組み 小学校教育研究会図書館教育部会及び中学校教育研究会学校図書部会において作成された各学校の読書活動計画をもとに、全43校に配置された学校司書と司書教諭等による指導が行われ、各校の読書の時間の充実につながりました。	読書計画を策定している学校数(校数)						
	目標値	43	43	43	43	43	
	実績値	43	43				
担当課による評価		担当課 教育指導課					
各学校では読書活動計画に基づいた読書指導が行われています。読書指導の充実のためには定期的な見直し等を行う必要もあります。各学校で作成された読書活動計画を定期的に見直していくとともに、計画に合わせた読書指導に学校全体で取り組むよう今後も努めていきます。							

重点取組の成果指標

学校図書館の貸出を利用する生徒・児童の割合		年度	27	28	29	30	31
取り組みや課題 <u>担当課</u> <u>教育指導課</u> 学校司書の全校配置から4年が経過し、児童生徒にとって利用しやすい学校図書館が整備されています。今後も、読書の楽しみを実感させる読書指導の工夫を進めていきたいと考えます。	平塚市立小学校28校の学校図書館 (%)						
	目標値	80	82	82	84	84	
	実績値	77	82				
	平塚市立中学校15校の学校図書館 (%)						
	目標値	28	30	30	32	32	
	実績値	29	30				
平日1日あたり10分以上読書をする割合		年度	27	28	29	30	31
取り組みや課題 <u>担当課</u> <u>教育指導課</u> 学力向上への取組等の影響で、学校における朝読書の回数が減少の傾向にあります。主体的に読書に親しむ児童生徒を育てていくためにも、学校図書館の更なる整備充実を進めていきたいと考えます。	平塚市立小学校の小学生 (%)						
	目標値	60	62	62	64	64	
	実績値	59	59				
	平塚市立中学校の中学生 (%)						
	目標値	45	47	47	49	49	
	実績値	47	43				

中間評価

A

中間評価部会委員からの提案事項等

委員からの提案事項

学校司書に採用されている方から聞いた話だが、司書の資格を持っていても、何年もブランクがあり採用後、初期研修のようなものがないとすぐに現場にでるのは厳しいと聞いたことがある。横浜市では3回ぐらい初期研修があるということを知ったことがあるが、学校司書に対する研修制度はどのようになっているのか。学校司書になるにあたっては、研修やガイドラインがあった方が良く感じている。

担当課の見解

学校司書の職務内容は、専門的知識・技能を必要とするものであり、研修の重要性は認識しています。しかし、現在、本市の学校司書は市の非常勤職員としての採用であり、研究会等の実施回数が限られています。その中で、学校の図書室を会場にし、実地研修的な意味を持たせたり、講師を招いて経験に基づいた講演やワークショップを実施したりしています。今後も、中央図書館や教育研究所と連携を図り、研究会等の内容を検討、充実させていこうと考えています。
(教育指導課)

委員からの提案事項

学校図書室の運営も、学校間でも温度差があるようで、学校司書がやりたいことがなかなかできない話もあるようだ。また、学校司書はそれぞれ個性があり、学校司書が変わると図書室もがらりと変わることがある。本の並べ方も変わったりする場合もあるので、ガイドライン等ある程度統一されていけば良いと思う。

また、学校司書が協議会に何らかの関わりが持てるような仕組みは必要だと思う。

担当課の見解

学校図書館の運営は学校運営の一部であり、司書教諭または図書館教育担当教諭（以下司書教諭等とする）がコーディネートしています。学校図書館の機能の充実を図るためには、司書教諭等と学校司書の連携が重要であることを、研究会等で繰り返し確認するとともに、各学校での取り組みや様子について具体的に情報交換する機会を大切にしていこうと考えています。
(教育指導課)

また、各中学校区子ども読書活動推進協議会の多数は、学校司書が学校関係者として構成委員となっています。地域の実情に応じて引き続き学校等と連携を図り、子ども読書活動推進事業を実施していきます。
(中央図書館)

重点取組の展開



おはなし会（西図書館）

V

図書館

における

子ども読書活動の推進

読書活動の拠点である公共図書館では、蔵書や展示の見せ方などを工夫し、学習や調べ物といったサービス機能の充実を図りながら、若年層に対する読書のきっかけづくりを行っていきます。

具体的な7つの事業（活動指標）

25 大学図書館・高校図書館との連携事業の実施	年度	27	28	29	30	31
取り組み 神奈川大学図書館との交流会を開催し、情報共有をしました。また神奈川大学図書館のコレクションを借用し、中央図書館で展示をしました。図書館協議委員を神奈川大学准教授に務めていただきました。東海大学、神奈川大学のPRコーナーを設け、周知を行いました。	東海大、神奈川大等との連携事業数（事業）					
	目標値	3	3	3	4	4
	実績値	3	4			
担当課による評価 借用展示については、大学のコレクションを市民が目にするのでよい機会となり、利用者からも好評の声が寄せられました。引き続き事業のPRを行い、広く交流を図っていきます。課題については、大学との交流会の場で、双方で協議しながら解決していく仕組みが必要と考えています。	担当課 中央図書館					
26 大学・高校生のインターンシップ等の受入れ	年度	27	28	29	30	31
取り組み 高校生のインターンシップ5名、大学生インターンシップ及び図書館実習生4名、高校生ボランティア2名を受入れました。	インターンシップ、ボランティア等の受入人数（人）					
	目標値	10	10	15	15	15
	実績値	12	11			
担当課による評価 ボランティア活動等に参加した学生が、将来図書館ボランティアとして活動できるような仕組みが必要です。高校生・大学生の参加しやすい日程の設定や、図書館への理解・関心を深めるためのプログラムなどの検討をします。	担当課 中央図書館					
27 支援を要する子どもたちへのサービスの充実	年度	27	28	29	30	31
取り組み 移動図書館のステーションや出前図書館で、来館が出来ない利用者に資料を貸出しました。また団体貸出により、公民館や文庫等への支援を行いました。	来館出来ない人へのサービス貸出点数（点）					
	目標値	40,000	40,000	41,000	41,000	42,000
	実績値	38,823	33,183			
担当課による評価 貸出点数が前年より下がっているため、さらにPRをしていくとともに、利用者のニーズに合った選書を行って利用の促進を図ります。敷地が狭いなどの理由で移動図書館車では訪問できない施設も多いため、団体貸出を充実させるとともに、訪問するための工夫が必要です。	担当課 中央図書館					
28 発達段階に応じたおはなし会の実施	年度	27	28	29	30	31
取り組み 定例のおはなし会に加え、中央図書館で特別おはなし会を2回、西部福祉会館で1回、四之宮公民館で1回おはなし会を実施しました。	おはなし会の実施回数（回）					
	目標値	160	160	160	160	160
	実績値	155	158			
担当課による評価 赤ちゃんおはなし会では終了後もママ友だちの交流が盛んな様子が見られ、外出する機会になっているようです。赤ちゃんおはなし会の参加が増加する傾向にある一方、3歳～小学生を対象にしたおはなし会の参加は減少傾向にあります。実施のバランスを再検討します。	担当課 中央図書館					

29 子ども向け読書活動事業の実施		年度	27	28	29	30	31
取り組み 全館で小学生を対象とした一日図書館員事業を開催したほか、本の特集展示など、子ども向けの読書活動事業を行いました。		子ども向け事業の実施件数(件)					
	目標値	140	142	145	148	150	
	実績値	145	144				
担当課による評価		担当課 中央図書館					
平成28年度は、市民の図書館体験に親子で参加できるように取り組みました。親子で事業に参加することで、家庭での読書推進につながることを期待しています。一日図書館員のアンケート結果などをもとに、子どもたちが図書館に興味関心を深めるための事業計画や、PR方法を検討していきます。							
30 レファレンスサービスなどの充実		年度	27	28	29	30	31
取り組み 中央図書館こども室でレファレンスを促すポスターの掲示や、子どもが本を調べて回答するクイズを実施しレファレンスをPRしました。		一日図書館員で本の探し方が分かるようになったと答えた割合(%)					
	目標値	90	90	93	94	95	
	実績値	93	92				
担当課による評価		担当課 中央図書館					
子どもたちがクイズやガイダンスを通して、本の探し方や調べ方が分かるようになったことで、本の活用に繋がります。知りたい情報を自分で調べられるように、引き続きガイダンス等を充実させていくとともに、必要な蔵書を揃え、提供していくことが求められます。							

重点取組の成果指標

1人あたりの年間貸出冊数(18歳以下)		年度	27	28	29	30	31
取り組みや課題	担当課 中央図書館 18歳以下の利用を促進するために、おはなし会や一日図書館員等の事業を開催し、広報誌等でのPRを行ってきましたが、前年度の数值よりも減少してしまいました。引き続き事業の充実や図書館活動のPRを行うとともに、貸出点数等の見直しを行い利用促進を図ります。	18歳以下の1人あたりの年間貸出点数(点)					
	目標値	9.0	9.0	9.5	9.5	10.0	
	実績値	8.6	8.1				
図書館の子ども向け事業の参加者数		年度	27	28	29	30	31
取り組みや課題	担当課 中央図書館 平成28年度は、27年度まで開催していた人形劇を中止した一方で、ボランティアと連携した特別おはなし会を開催しました。土曜日や春休みの開催であり、2回で71人の参加がありました。通常のおはなし会には来ていないお子さんや保護者が参加でき、赤ちゃんから小学生までの幅広い年齢層の子どもが大人と一緒に楽しむことができたという成果もありましたので、今後も実施します。	赤ちゃんおはなし会・おはなし会等の参加者数(人)					
	目標値	5,200	5,250	5,300	5,400	5,500	
	実績値	4,908	5,733				
18歳以下の図書館サービスの利用		年度	27	28	29	30	31
取り組みや課題	担当課 中央図書館 中高校生向けの会議室の開放は、夏休み・冬休みともに開放日を増やしたことで、利用する生徒の人数が増えました。将来的には、部屋の開放にとどまらず、レファレンスや読書相談に乗ることができるような体制づくりが課題と考えています。	子どもレファレンスの件数(件)					
	目標値	870	880	880	890	900	
	実績値	486	528				
		中央図書館会議室の中高生向け開放等の利用人数(人)					
目標値	60	60	70	70	80		
実績値	46	120					

中間評価

B

中間評価部会委員からの提案事項等

委員からの提案事項

図書館では、参加者に投げかける取り組みは行われていると思うが、参加者にアクションを起こしてもらう活動があっても良いと考える。おはなし会等小さい子を対象としたものはあるが、小中学生にも図書館に来てもらえるような事業、例えばビブリアバトル（本の紹介コミュニケーションゲーム）やアニメーション（読書にゲーム要素を交えた参加学習型の本の読み聞かせなど）等参加型のイベントを実施したらいかがか。全体的に小中学生は学習室も常設されていないせいか図書館にあまり来ないのが現状なので、図書館にくる年齢層を広げたいというのがある。

さらに、毎年課題図書として図書館で本を大量に購入すると思うが、それを有効活用できないかとも考えている。課題図書を利用して参加型のイベントを実施しても良いと思う。

担当課の見解

小中学生向けのイベントとして、例えば一日図書館員等を実施していますが、ボランティアの方からも何か小中学生が参加できるようなイベントを実施できないか、という提案をいただくことがあります。また、課題図書の活用についてですが、図書館には課題図書を含め様々な種類の本が沢山あるので、それを利用して参加型イベントを実施する案はとても良いと考えます。

ボランティアの方々と協力し、来年度に向け、小学生を対象としたワークショップ、参加型のイベントを何らかの形で実施できればと考えます。
(中央図書館)

委員からの提案事項

小中学生は学区内が行動圏内なのでそのあたりも小中学生の利用に影響があると思う。小学校では、クラブ活動もあると思うので、学区内の小中学校と連携し特定のイベントを実施できるのではないか。例えば、図書館の本の並べ方を紹介したりする体験活動で本が好きな子どもをターゲットに特定の企画をたてるのは可能ではないかと考える。

担当課の見解

夏休みや冬休みに中高校生向けにボランティアを募集し、書架整理や配架などを体験してもらったりしています。例えば北図書館では、学校の授業の一環で小学校の児童が図書館に訪れたことがあり、その中で貸出体験も実施し、その後図書館に足を運んでくれることに繋がった例もあります。学校側からの働きかけがあると、小学生も図書館に足を運びやすいようですので、小中学校へも図書館から様々な事業の提案ができると良いと思います。
(中央図書館)

委員からの提案事項

継続していくとロコミなどで広がっていくので、場の提供は必要だ。建物の問題もあるが、勉強スペースの提供という視点も重要ではないか。自習専用の部屋を用意するのではなく、小スペースやミーティングスペースのような柔軟なスペースをつくるのは良いと思う。図書館を居場所として捉える考え方が現在では増えており、図書館が居心地の良い場所だとそこに自然と人が集まってくると思う。

担当課の見解

中央図書館3階参考室は図書館の資料を閲覧するためのスペースですが、空いていれば勉強することが可能で、勉強しながら調べ物をしたりしていただくことができます。その他、研究・調査のための個室（1室、4席）があり、有料（1席200円）で貸し出しています。また、夏休みや冬休み期間には、会議室を中高校生に開放し、グループ学習ができるような自習スペースとしてご利用いただいております。限られたスペースではありますが、いただいたご意見を参考に、有効に活用できるよう心がけてまいります。
(中央図書館)

委員からの提案事項

中央図書館のエントランスは、暗い印象がある。エントランスからはこども室へも繋がっているので、子どもには怖いイメージがある。こども室側だけでも子ども向けのスペースに変えてみたり、展示をしたりしてはどうか。カフェのある図書館も増えてきているので、テーブルとイスを置いてスペースを活用したり、明るい雰囲気にはできないかと考える。

担当課の見解

中央図書館のエントランスは明かりが入りづらい印象があります。建物の構造上、改善できない面もありますが、学校では、ボランティアの方々に図書室内の壁面の飾りつけをしていただいている、子どもたちもとても喜んでくるとの話もあります。中央図書館でも、子どもたちも利用しやすい雰囲気となるような壁面などの飾りつけについて検討してみたいと思います。

(中央図書館)

図書館協議会委員からの提案事項等

委員からの提案事項

小学生までを対象としたおはなし会の参加者は減少傾向にあるとのことだが、幼児などまだ小さい子は本を読んでもらうことだけで楽しいと思うが、小学校中高学年・中学生になると、読んだ本についてディベートをしたり、ロジカルシンキングを育てるような学びの場があれば参加者は増えていくと思う。本を読んでもらうためだけにおはなし会に参加しようとはなかなか思わないのではないか。

担当課の見解

毎週水曜日午後3時半から中央図書館で実施しているおはなし会では、参加されたお子さんにスタンプカードを渡し、全てたまると雑誌の付録等をプレゼントするなどにより、参加者が増えた時期もありましたが、ここ最近はまだ減少傾向にあります。ボランティアの方々と連携・工夫し実施するようにしていますが、児童数の減少や塾や習い事に通うお子さんも多いことから、参加者が増えないのが現状です。

ご提案の件ですが、おはなし会とは別の目的のものとして、お子さんが参加しやすい日程で参加型のイベントを実施できれば良いと考えています。平成29年の夏には、小学生を対象としたおはなし会を実施後、小学校の元教員を招き、感想文の書き方の相談を受けていただきました。今後このような場の提供も、さらに検討していきたいと思います。

(中央図書館)

重点取組の展開



子ども読書活動推進フォーラム

VI 子ども読書活動の **啓発** の推進

平塚市では、数百人が参加する子ども読書活動推進フォーラムを筆頭に普及啓発事業を実施しています。広く市民や学校、関係団体に対して読書活動への理解や協力をいただくためにも、関係先への周知やPRは不可欠です。図書ボランティアの輪を広げるためにも、読書に関する普及啓発活動を推進していきます。

具体的な7つの事業（活動指標）

31 関係機関等と連携した新たな取組の実施	年度	27	28	29	30	31
取り組み 西部福祉会館の子育てサロンで、親子に対し、絵本の読み聞かせと読書相談を行いました。また農水産課と連携した「宮沢賢治生誕120年記念事業」として、本の展示やクイズラリーを行いました。	新規に関係機関等と連携した事業数（事業）					
	目標値	1	1	1	2	2
	実績値	1	2			
担当課による評価 担当課 中央図書館 連携により、図書館に来館していなかった子どもたちとその保護者へのアプローチができました。連携については、それぞれの機関の特性を活かした事業を展開することで、効果的な読書活動の支援となります。そのためには、相手機関との協議を十分に行うことが必要です。						
32 学校図書館の図書だよりなどの充実	年度	27	28	29	30	31
取り組み 市内全43校すべての学校で図書だよりの発行を行い、新着図書の紹介等を通して読書活動の啓発を行いました。	図書だよりを発行している学校数（校）					
	目標値	43	43	43	43	43
	実績値	43	43			
担当課による評価 担当課 教育指導課 各校で工夫された図書だよりが発行されています。さらに効果的な内容を目指し、情報交換の時間を充実させていきます。情報交換等を通して、各校で作成される図書だよりの充実に努めていきます。						
33 図書館の情報発信の充実	年度	27	28	29	30	31
取り組み きいぶ4回（臨時号1回を含む）、こどもきいぶ1回、こどもらぼーる1回発行しました。 ※きいぶ…図書館広報誌 こどもきいぶ…子ども向け図書館広報誌 こどもらぼーる…子ども向け図書館年報	きいぶ、こどもきいぶなどの発行回数（回）					
	目標値	5	5	5	5	5
	実績値	5	6			
担当課による評価 担当課 中央図書館 こどもきいぶの本の紹介記事に合わせた展示を全館で行いました。展示した本は多く利用され、PRの成果があったと考えています。広報誌を通じて、図書館の活動や蔵書を紹介することで、利用の促進につながることを期待できます。ホームページの充実も含めて、新しい情報を今後も提供していくように努めます。						
34 子ども読書活動の情報発信の充実	年度	27	28	29	30	31
取り組み 子ども読書活動ネットワーク運営委員会（11回会議を開催）の情報誌「LINK」の発行（2回）をしました。	子育て支援事業等での読書活動の実施回数（回）					
	目標値	2	2	2	2	2
	実績値	2	2			
担当課による評価 担当課 中央図書館 協議会以外で活動する図書ボランティアも市内で多く活躍しているため、協議会に限らずより広い層へアプローチする工夫が必要です。市内で活躍する図書ボランティアの取組事例を紹介するなど、図書に関する情報提供や情報発信に努めていくことが必要です。						

35 インターネット等を活用した情報発信の充実		年度	27	28	29	30	31
取り組み 子ども向けの本を紹介するページを毎月更新しました。	子ども向けホームページの更新件数(件)	目標値	12	12	12	12	12
		実績値	14	12			
		担当課による評価 担当課 中央図書館 閲覧回数は増加を続けています。紹介された本の貸出し回数も増加しています。毎月の更新が定着してきたので、引き続き新しい情報を掲載するように努めるとともに、子ども向けのホームページ全体の見直しも進めていきます。また、中高生世代に向けて、スマートフォン対応のホームページの構築が求められています。					
36 広報紙、報道発表などの情報提供の強化		年度	27	28	29	30	31
取り組み 広報ひらつかやタウン誌を通じて、子ども読書フォーラムやおはなし会など、図書館の事業のPRを行いました。	広報依頼等の回数(回)	目標値	13	13	13	13	13
		実績値	13	16			
		担当課による評価 担当課 中央図書館 広報誌等に掲載されることにより、図書館事業についてより多くの方に知っていただく機会になりました。広報誌への情報提供により、利用の促進や図書館への興味関心の深まりが期待できるため、今後も積極的にPRをしていく必要があります。					
37 子ども読書活動推進フォーラム等の啓発事業の実施		年度	27	28	29	30	31
取り組み 子ども読書活動推進フォーラムや平塚信用金庫からの絵本の贈呈式について記者発表を行いました。	啓発及びそのPRの回数(回)	目標値	3	3	4	4	5
		実績値	4	2			
		担当課による評価 担当課 中央図書館 記者発表を行うことで、新聞等にも掲載され、広く事業をPRできました。報道機関等に積極的に情報を提供していくとともに、読書の契機となる啓発事業の充実が課題となります。事業については、開催方法などを十分に検討し、効果があがるようにする必要があります。					

重点取組の成果指標

広報紙やタウン誌等での掲載件数		年度	27	28	29	30	31	
取り組みや課題 担当課 中央図書館 タウン誌「ワイヤーママ西湘版」におはなし会の記事が掲載されたほか、SCNで「こころと命のサポート」の展示が紹介されるなどし、図書館のPRを行うことができました。今後もいろいろなメディアを通じて、積極的に図書館活動をPRします。	広報ひらつかの掲載件数(件)	目標値	26	27	28	29	30	
		実績値	40	42				
	タウン誌等の掲載件数(件)	目標値	2	2	2	2	3	
		実績値	3	4				
	子ども読書活動や連携した取組の応募者数など		年度	27	28	29	30	31
	取り組みや課題 担当課 中央図書館 子ども読書活動推進フォーラムについては、応募者は目標に達しませんでした。学校や各地区の読書活動推進協議会の協力でPRを行い、平成27年度よりも参加者が増加しました。またフォーラムのアンケートでは、99%の方が「とてもよかった」と回答し「これからも絵本にふれあっていきたい」などのコメントも寄せられています。今後も啓発事業としての成果があがるように、ボランティアと協働して推進していきます。	子ども読書活動推進フォーラムの応募者数(人)	目標値	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
実績値			565	617				
子ども読書活動に関連した関係機関と連携した取組を実施した期間の図書館の来館者数と年間平均の来館者数との差(人)		目標値	30	30	30	30	30	
		実績値	101	360				

中間評価

B

中間評価部会委員からの提案事項等

委員からの提案事項

平塚市でも、「家読（うちどく）」を進めてはいかがか。「家読」とは、家族で読書の習慣を共有することで、絵本でもどんな本でも、家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話すことである。

担当課の見解

大和市では、毎月23日は「やまと家読（うちどく）の日」と定め、家読を啓発するためのリーフレットや読書記録用「家読ノート」を作成し、市内各小中学校や図書館の来館者へ配布したり、ブックリスト「おうちで読もう！」発行したりしています。その他神奈川県内では湯河原町も「家読」の推進をしていますが、「家読」の推進にはどのような活動が必要か、効果はどのくらいあるのか等他市の事例を参考に、次期計画改定時と合わせて検討していきます。（中央図書館）

委員からの提案事項

次期の計画を策定する際、ある程度調査した方がいい項目があるような気がする。図書館の来館者や貸出件数を増やすためにどうすればいいのか考えるときに、地理的、市民の特性を考えることも必要である。

担当課の見解

平成28年度から「手をつなぎたくなる街湘南ひらつか」をスローガンに本市のイメージ向上や定住促進を目指し、市の様々な魅力を発信するシティプロモーションが始まりました。本市が進めるべきシティプロモーションの方向性や目的、重点的に取り組む事項を、人口動態のデータや意識調査の結果などから分析していますので、その結果や今後のアンケートなども参考に本市の地理的、市民の特性を考え、図書館の利用につなげられるよう検討をします。（中央図書館）

重点取組ごとの構成事業担当課一覧

		事業名	担当課
家庭	1	乳幼児を迎える家庭に向けた読書活動の啓発	中央図書館
	2	ブックスタート事業	中央図書館
	3	家庭教育学級などでの読書関連事業の開催	中央公民館
	4	家庭向けの読書事業の実施	健康課
地域	5	子育て広場での読書活動の実施	保育課
	6	子育て支援センターでの読書活動の実施	保育課
	7	開放保育等での読書活動の実施	保育課
	8	公民館の子ども向け図書の利用	中央公民館
	9	図書館と公民館との連携の促進	中央公民館
	10	こころと命のサポート事業での読み語りの実施	福祉総務課
ボランティア	11	各中学校区協議会運営の弾力化	中央図書館
	12	意欲的な活動に対する適切な支援と援助	中央図書館
	13	子どもの家での読み語りの実施	青少年課
	14	ボランティア向けの講習会等の実施	中央図書館
	15	学校や関係機関等との協力強化	教育指導課
	16	ボランティアと協働した事業の実施	保育課
	17	ボランティアへの情報提供の促進	中央図書館
学校等	18	幼稚園教諭への意識向上、啓発	教育指導課
	19	保育園等での読書活動の実施	保育課
	20	学校司書の支援の強化	教育指導課
	21	司書教諭、学校司書の情報共有、意見交換の充実	教育指導課
	22	学校図書館（小・中）の蔵書の充実	教育総務課
	23	教科等との連携の強化	教育指導課
	24	読書計画の作成、読書の時間の充実	教育指導課
図書館	25	大学図書館・高校図書館との連携事業の実施	中央図書館
	26	大学・高校生のインターンシップ等の受入れ	中央図書館
	27	支援を要する子どもたちへのサービスの充実	中央図書館
	28	発達段階に応じたおはなし会の実施	中央図書館
	29	子ども向け読書活動事業の実施	中央図書館
	30	レファレンスサービスなどの充実	中央図書館
啓発	31	関係機関等と連携した新たな取組の実施	中央図書館
	32	学校図書館の図書だよりなどの充実	教育指導課
	33	図書館情報発信の充実	中央図書館
	34	子ども読書活動の情報発信の充実	中央図書館
	35	インターネット等を活用した情報発信の充実	中央図書館
	36	広報紙、報道発表などの情報提供の強化	中央図書館
	37	子ども読書活動推進フォーラム等の啓発事業の実施	中央図書館

平塚市子ども読書活動推進計画 事務局

〒254-0041 神奈川県平塚市浅間町12番41号

平塚市教育委員会 社会教育部 中央図書館

電話 0463(31)0415 FAX 0463(31)9984

e-mail library@city.hiratsuka.kanagawa.jp

